

# 隨泉寺寺報

平成18年(2006年) 10月号 第434号

TEL 082-892-0217 <http://www.ttec.co.jp/~zuisenji/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

秋季永代経法要

講師 覚法寺住職 花田哲朗師

講題 「私の仏教、浄土真宗」

『君に我が おくるる道の かなしきは  
過ぐる月日も はやきなりけり』 寂念(じゃくねん)

【通釈】あなたに先を越されてしまった私の人生の旅路で、悲しく思うのは、あなたの早すぎる死ばかりでなく、あれから過ぎ去った月日がこんなにも速やかであったことなのです。

永代経とは亡くなられた人のご恩を偲ぶ時です。

安倍晋三さんが総理大臣になりました。少しタカ派的な方なのでいかが相成ります事やら、心配なことです。評価できる事は少し前のインタビューで【恩という事を忘れてはなりません】という発言です。この頃【恩】という言葉は死語のようになっています。【恩】とは私の為に頼みもしないのに動いてくださったという事です。そして見返りを求めないという事です。

【恩】という言葉に戦時中の影を見る人がいますが、大切な言葉です。私が生きていく上には、たくさんの人々の支えがあって、今生かされているのです。

## 10月の法座予定

- 10月 8日.....掃除 望ヶ丘
- 10月 14日 昼席午後1時より.....秋季永代経法要
- 10月 14日 夜席午後7時半より.....出張法座 望ヶ丘集会所
- 10月 15日 朝席午前10時より.....若い婦人の集い おとし
- 10月 15日 昼席午後1時より.....秋季永代経法要
- 11月 2日 午後6時より.....門信徒会本部役員会

## ☆若い婦人の集い 10月15日(日) 午前10時～

今年も若い婦人の集いを開催します。このごろ十代の殺人事件が毎日のように報道されています。それも《勉強をしていないと口うるさく言われたから》とか、《友達とのことを注意されたから》また《父親の事を弁護したから》とか、少し自分に気に食わない事があると、短絡的に《邪魔なものは殺してしまう》といった身勝手な理由で、いとも簡単に殺人という大罪を犯してしまいます。なぜこんな事になってしまうのでしょうか。その理由の一つに【経験】といったことがあるのではないのでしょうか。人間は経験に基づいて行動をします。生まれたときは人間は【経験】は皆無です。それが成長するにしたがっていろいろなもの、事がらにあつて自分の行動の判断基準になります。昔は大家族の中にあつて、怒られたり、教えられたりして、成長していきます。当然家族の【誕生】や【死】というような嬉しい事や、悲しい事にも出会います。又近所も共に生活をする大きな共同体のような事ですから、当然同じような、【経験】をします。それが現在のよう核家族のほんの2～3人の経験だとその様な、嬉しい出来事も、悲しい出来事にもであいませぬ。涙を流した事が無いのです。大切な人をなくして大声を出した泣いた【経験】が無いのです。人の悲しみや、苦しみが解らないのです。だから平気で【人も殺せる】のです。今こそ、家庭の中で【正しい教え】が必要なのではないのでしょうか。そうした意味で是非とも若いお母さん方に【正しい教え】にあつて欲しいのです。今年はずっと日曜日にあつてました。今回の御講師の先生は《安芸北組》の組長をしておられる矢賀の覚法寺のご住職《花田哲朗》先生です。安芸北組はもちろん、安芸教区全体の中心の牽引者のような先生です。若いお母さん方、是非とも誘い合わせてご参加下さい。



## ☆菊花展・絵画・手作り作品展

今年は菊花・絵画展に加え、手作り作品展を開催します。門信徒の中で菊の花の鉢植え・絵画・木工・陶芸・絵手紙・手作り作品等ありましたら出展下さい。又、隣近所でこれぞと思われる方がおられましたら、声をかけてください期間は11月7日～15日までの予定です。楽しみにしています。自薦他薦を問いません。どんどんお持ちください。



## あっぱれ 母ちゃん！

この四月に満99歳を迎えた。それから二ヶ月弱。

お母さんのことを自分のこととして考えるようになったのは、姉が昨年9月になくなってからのこと。それまでは、姉が母と同居し、母のことを一身に受けて一切合切を見てくれた。



© 2005 TOSHIBA CORPORATION

中程度の痴呆であった。姉の姿が見えなくなると後を追うという風であった。怒られながらも姉を頼りにするその姿に母の往時の面影はすでになかった。その姉も肝臓に爆弾を抱えながらの毎日であった。一緒に住み続けると本当のところは誰にも理解できない介護の世界。姉の頭は烈火のごとくカッカカッカと燃えさかりながらも、時には優しく、時には鬼の如くの形相でしかりつける姿に、“やさしくしてあげてね！”というのが精一杯のところであった。他人ごとの自分がいた。

普通の人でなくなった母(自分が思い描く母)と四六時中一緒では、心も体も持たず、デイサービスやお泊りを利用しながら、一方で、自分の体調とのバランスを考えながらの毎日毎日がきちきちの生活であったのだろう。

姉の亡くなった晩に、お母さんのずっと住んでいた(ずっと以前には私も住んでいた)我が家に泊まった。お母さんは、医療保護という形の緊急入院で、この家にはいない。姉のことよりも、これからの母のこと、この家のこと、目の前の手入れをしないですすけていたお仏壇のことが頭から離れなかった。

呉の病院にそれから五ヶ月、広島へ転院してから四ヶ月。見る見る足が弱ってしまったような気がします。病院へ面会に行くことと決まって“ありがとう！”“ありがとう！”と感謝の言葉を一杯くれました。何の不平を言うわけではなく、病院へ入れることしかできない自分を只ただ許してくれる姿に、かなわないなあー。最後まで私たちを責めることのなかったお母さん。最後はこうして行くのだよと示してくれたのかもしれませんが。



還骨勤行、初七日法要のお勤めをしていただいた後、このまま別れたのでは皆がバラバラになると思ったのでしょうか？残った私達が“皆仲良くするように！”とみんなて話をする場を設けてくれたような気がします。お寺の本堂に皆が残ってそれぞれの胸のうちを一杯打ち明けることができ皆の仲をうまく治めてくれました。普通なら、思いをぶちまけて喧嘩別れをするところです。一時間以上も経っていたと思います。ご本堂を提供して下さったことも感謝で一杯です。ほんとうにありがとうございました。

母を送っていただいた晩に、「法名」と書かれた包みを開くと一瞬息を呑むようでした。

“ 釋 聞 治 ”

葬儀の時に耳に残っていた“シャクモンチ”は“釋文智”。しかし、包みに書かれていたのは“釋聞治”。しっかり話を聞いてうまく治まる、治める(治安、治世)という意味の名前をお母さんは仏様からいただいた。私達の事情をお話したわけではないのに中をきちんと解っておられると思いました。

何の不満を言うのでもなく、ただただ黙って人生を全うした。アップレ 母ちゃんです！

“もう、わたしは大丈夫だよ！みなも明日から頑張っテ！”と母ちゃんが言っているようです。

(中野東 M. A)

## ☆研修旅行

9月4日に備後沼隈に研修旅行に参りました。参加者が多くて結局バス2台になり賑やかな旅行になりました。最初にお参りした赤坂の西明寺は



私の叔母になるお寺です。帰りには《フェイ・ジョア》というめずらしい果物の苗を一本ずつ頂きました。無事根付いてくれたらいいなと思っています。次に光照寺におまいりいたしました。光照寺は、この中国地方の浄土真宗の中本山とも言うべき立派なお寺です。今回の目的の一つが、そこにある御絵伝の古いものを観たいと思っていたのですが、本物は重要文化財ということで、複製を

拝見しました。最後に草深の南泉坊に参りました。このお寺も前住職が、私の叔父の寺で住職が、広島カープの梵選手の母の弟になります。天候もよく大変有意義な旅行でした。

## ☆灯茶会



今年から門信徒会の主催で行いました。19日に本堂の裏の竹を切っていただき、竹の灯籠を100個作って境内に火を灯しました。山門からの灯りの列はなかなか素晴らしく、本堂がうっすら浮かび幻想的でした。又、虫の声を聞き比べるという本を、門前さんに提供してもらい、なかなか好評でした。鈴虫はリンリンと鳴くのかと

思っていました、チーチーとなくようです。リーンリーンとなくのはどうやらこおろぎのようです。兎にも角にも綺麗な灯りと、虫の声を堪能した夕べでした。

